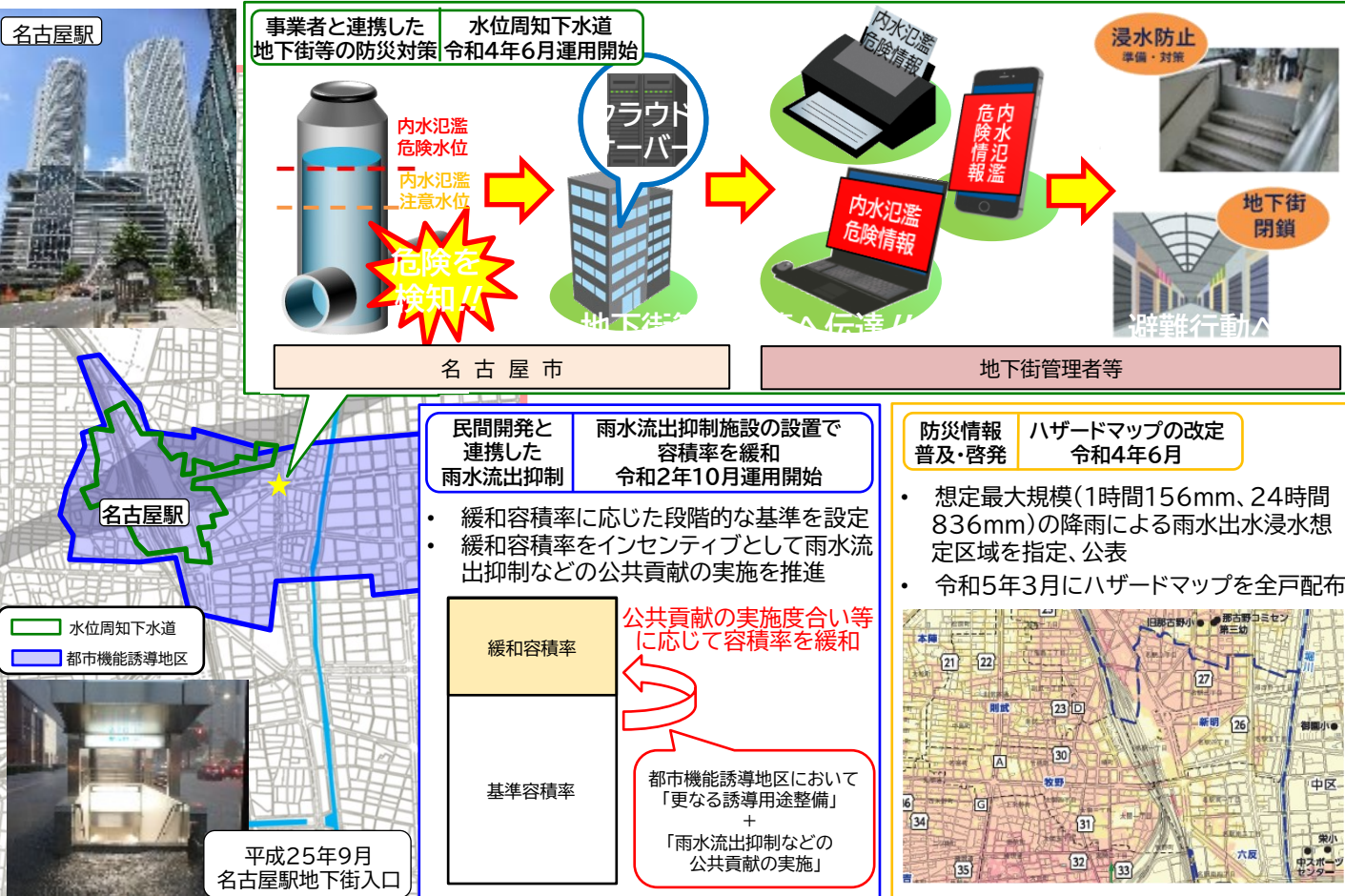


防災・減災部門

応募事例名

名古屋の玄関口における事業者の防災意識の向上！ ～水位周知下水道の運用～

応募団体名)名古屋市上下水道局



ソフト対策の推進による 防災意識の向上	事業者と連携した地下街等の防災対策	名古屋駅周辺の下水管の水位情報を地下街管理者等に伝達。提供する水位情報は、地下街管理者等と協議を重ね、 内水氾濫危険水位 に加えて、道路冠水の発生が懸念される水位である 内水氾濫注意水位 を独自に設定。地下街等の迅速な水防活動や避難誘導に活用。
	民間開発と連携した雨水流出抑制	下水道への負荷を軽減できる雨水流出抑制の実施に対し、容積率緩和のインセンティブを付与し、市民・事業者の雨水流出抑制を推進。
	防災情報普及・啓発	想定最大規模降雨時においても適切な避難行動等を考えていただくため、ハザードマップを改定。市政出前トークや各種イベントの機会を捉えた普及啓発を実施。



計画部 担当課長
丹羽 晴紀

リニア中央新幹線開業を控える名古屋。その玄関口である名古屋駅周辺においては、治水施設整備による浸水対策を進めているところですが、昨今の豪雨の状況を鑑みると、地域の方々との連携による更なる対応が必要不可欠です。

地下街管理者等の皆様と顔の見える関係を築き、議論を重ねた水位周知下水道の運用開始から2年を経過しました。

様々な規模の降雨に対応するため、水位周知下水道やハザードマップ等のソフトツールによる迅速な水防活動への活用や、市民・事業者の皆さまによる雨水流出抑制の推進など、豪雨対応における「自分事化」を進める取り組みを行っています。